

学校名 熊谷市立大麻生中学校
所在地 熊谷市大麻生35-1
電話 048-532-3575

1 本校の概要

各学年2クラス、全校6クラスの小規模校である。生徒は大麻生小学校からそのまま入学してくる。田畑に囲まれた自然豊かな地域で、3世代同居の家庭も少なくない。保護者の教育に対する関心も高く、協力的である。朝読書に全校で取り組んで6年目になり、定着してきた。

2 本校の実践

(1) 実践の視点

読書活動の充実

(2) 実践の概要

ア 図書委員会の活動

「ワタシの一行」づくり：図書委員がそれぞれおすすめの一冊を選び、本の中の印象的な一行と選んだ思いやエピソードを書いて掲示した。

例「永遠の0」（百田尚樹）を選んだ生徒
・・・『生きて家族の元に帰る。』

「植物図鑑」（有川 浩）を選んだ生徒
・・・『雑草という名の草はない。』



また、読書週間の標語「本と旅する本を旅する」も一緒に掲示し、生徒が立地条件の悪い図書室（4階の一番奥の部屋）に足を運ぶように、目に付く通路や階段に掲示した。

イ 読書感想文への取組

夏休みの全校課題の一つとして、「読書感想文」を課しているが、その指導はなかなか難しい。そこで、生徒用の「夏休みのしお

り」に次のような手引きを入れて、書く時の参考にさせた。また、図書室で本選びに迷っている生徒に、積極的に声をかけ、「課題図書」や「自由図書」の推薦をした。

読書感想文の書き方の手引き

1 書くときの3つのポイント

- ①どんな本かということ
- ②本が何について書かれているかということ
- ③第一、第二についてあなた自身がどう考えるかということ

2 「うまく意見が書けない」人のために

「**な・た・も・だ**」を使って

な 「なぜならば」・・・なぜならば、〇〇だからです。（理由）

た 「例えば」・・・例えば、こんなことがありました。（具体例）

も 「もしも」・・・もしもわたしが主人公だったら（自分に当てはめる）

だ 「だから」・・・だから、私はこう思います。（結論）

3 本の選び方

- ①意見がはっきりしている本
- ②筋が明確な本
- ③誕生して五十年、百年とたった本や昔話
- ④おじいさんやおばあさんに、おすすめの本を聞いてみる

3 成果と今後の課題

(1) 図書委員会の活動を中心とした読書活動をすることにより、生徒たちにとって本が身近な存在になってきたことが、貸し出し状況に見られるようになった。

(2) 熊谷市読書感想文コンクールには3作品出品し、県のコンクールに全作品が出品できた。読む本をしっかりと選ぶことが大事であることを理解させることができた。今後は、さらに利用しやすい図書室を目指し、さらに読書活動に取り組ませたい。